

●横浜市開港記念会館

横浜商人の拠点として、町会所が本町一丁目に落成したのは、明治七年（一八七四）のことである。会館は、町会所の焼失後、開港五〇周年の記念事業として建設され、大正六年七月に開館。以後、公会堂として親しまれ、文化の殿堂であった。

震災当日、建物は崩壊を免れたが、太田町一丁目方面から迫る炎に包まれ、屋根は落ち、内部の大部分が焼失した。建物の特徴づけるドームも焼け落ちた。

震災後、外壁や塔を修復し、昭和二年六月には、大横浜建設記念式が会館で挙行された。財政事情からドームは省略され、装飾もやや簡略化された。第二次世界大戦後、昭和三三年まで米軍に接収される。

平成元年、市政百周年を記念し、ドームを復元、同年、国の重要文化財に指定された。塔は「ジャック」の愛称で知られる。



震災前：絵葉書「横浜会館」



震災：紙焼き写真「横浜記念会館」（『横浜震災被害写真帖』所収）



復興：絵葉書「開港記念横浜会館」